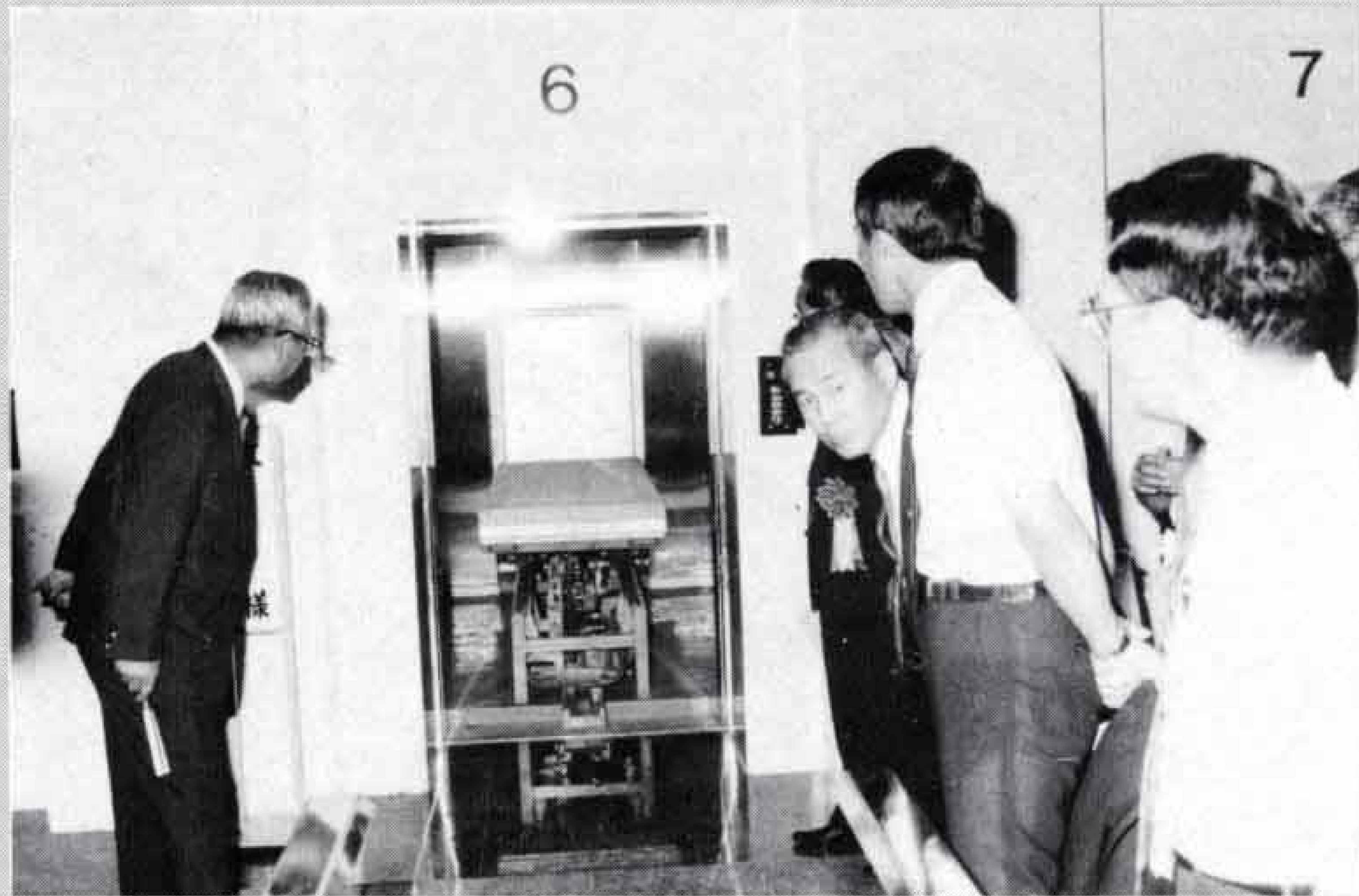


囲まれた斎場がオープン

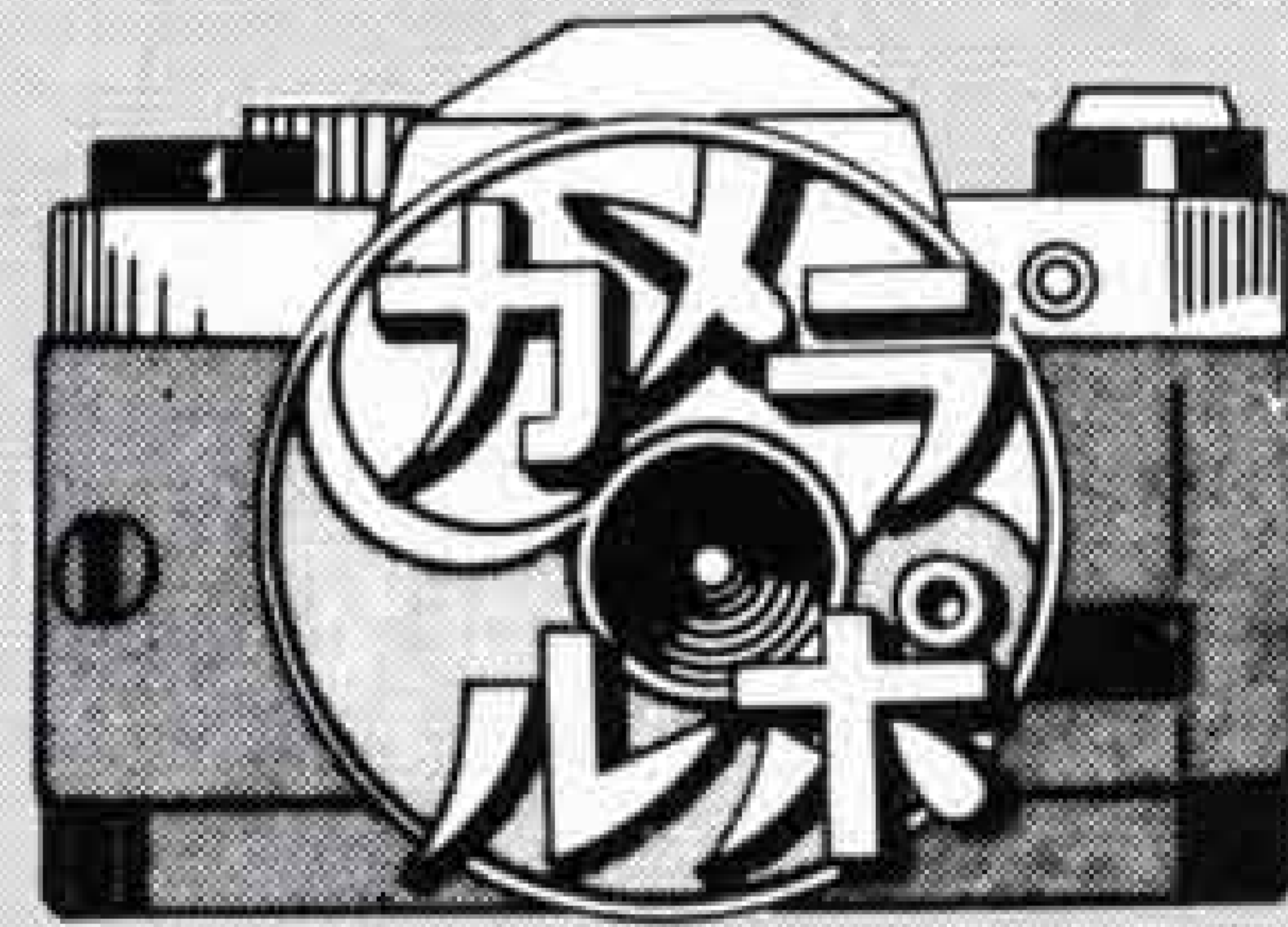
8月11日から



△公害対策にも万全を期した火葬炉

市内末広町に建設を進めていた富士市斎場（火葬場）が、このほど完成。8月10日に開場式を行い、翌11日から使用を開始しました。

新しい斎場は、敷地面積20,883平方メートル、火葬棟、管理棟、待合棟からなる施設は、延べ床面積2,700平方メートルです。最新設備を導入した新斎場は、公害防止面にも万全を期し、日本庭園、光庭などを設けるなど緑に囲まれた斎場となっています。



熱気で暑さを吹き飛ばす

— 第二十回婦人夏期大学を開催 —

第二十回富士市婦人夏期大学が、

八月二十四日、富士文化センターで

開かれました。

開講式のあと、

「愛は我が家から」

のテーマで俳優の

村松英子さんが、

午後からは、評論

家、藤原房子さんが「一

十一世紀へつなぐ女性の豊かな生き

方」のテーマで講演を行いました。



△講師の村松英子さん



▷戦火に散った人々の冥福を祈る

平和への誓いも新たに

富士市戦没者追悼式



▷正午を期して一斉に黙とう

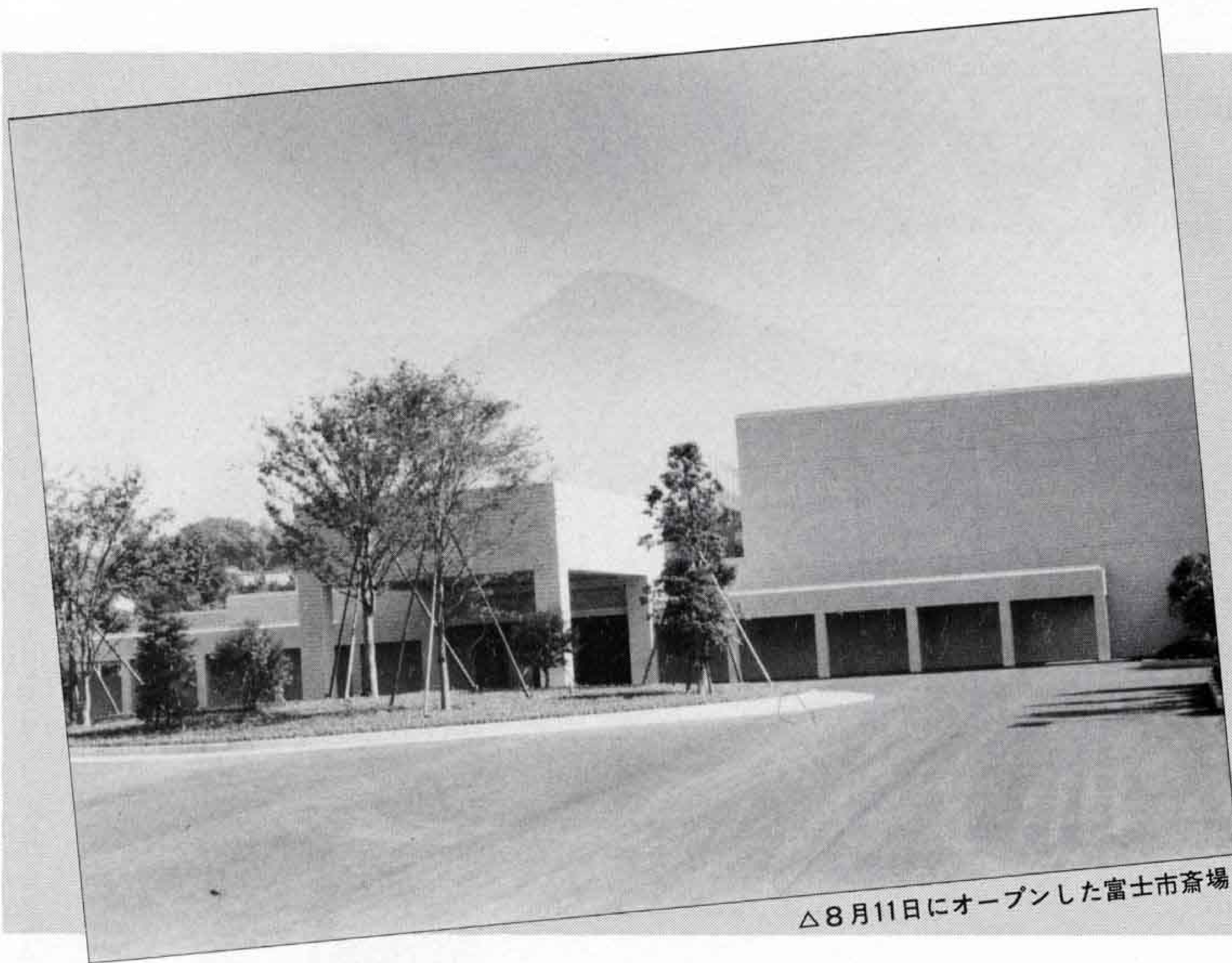
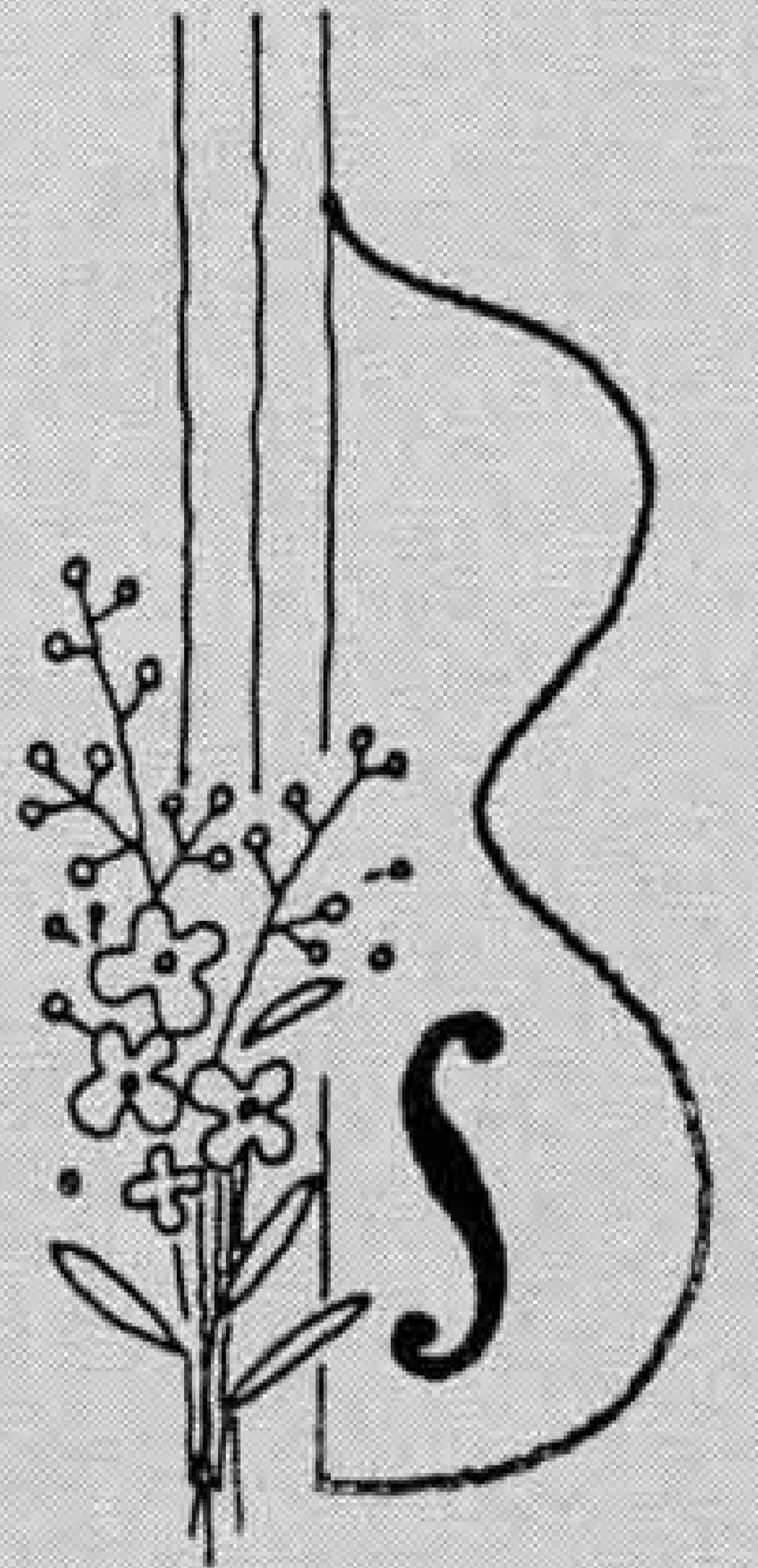
終戦記念日の八月十五日、恒例の「富士市戦没者追悼式」が吉原市民会館で行われました。市内の戦没者は、二千六百九十二柱。追悼式には遺族を初め、市長、議長も参列し、平和への誓いを新たにするとともに、戦火に散った人々の冥福を祈りました。



△会場は婦人の熱気でいっぱい

1、富士山のように 高く 教養を深め 視野のひろい市民となります

緑に



△8月11日にオープンした富士市斎場

着々と整備が進む下水道

下水道の役割

下水道は、各家庭から出される台所や風呂の水、し尿を生物化学的に処理して川や海へ流します。トブのように汚水をそのまま流すことがないので、川や海が汚れずハエやカ、悪臭などの発生が防げます。また、衛生的な水洗トイレが使えるのも魅力の一つです。

このように下水道は、市民を快適で衛生的な生活環境に導き公共水域の水質保全に大いに役立ちます。

普及率は二十九・九%

本市の公共下水道施設は、昭和四十年に吉原処理場が、昭和四十九年に富士見台処理場がそして、昭和五十五年に富士処理区の西部浄化センターがそれぞれ供用開始しています。

現在（六十年度末）本市の下水道普及率は、二十九・九%で県平均を上回っているものの全国先進都市に比べるとまだまだ立ちおくれています。

そこで、一層の整備を図るため、昭和六十五年四月の供用開始を目標に、現在東部浄化センターの建設を進めています。

下水道事業は、相当の年月と膨大な費用がかかりますが、市は、今後も積極的に整備を進めていきます。また、あわせて吉原市街地を中心とした雨水管渠の整備も進めていきます。

処理方法に工夫

本市の下水道処理場では、いろいろな工夫を凝らし、全国的にも珍しい処理方法を採用しています。吉原下水道処理場では、割石を敷き詰め、汚水が割石の間を流れていくうちに水をきれいにする「礫間接触酸化法」をまた、富士見台処理場では土壌微生物を利用した土壌脱臭法を採用しており、現在建設中の東部浄化センターでもこの方式で脱臭します。



△全国で初めての処理方式「礫間接触酸化法」を採用した吉原下水道処理場

………子に贈る 大きな遺産 下水道………

9月10日 (この日を中心として一週間) 全国下水道促進デー

期間中の主な行事

〈下水道展の開催と下水道相談所の開設〉

とき 9月19日～23日
ところ パピール4階催事場

〈西部浄化センターの開放〉

とき 9月10日～12日 10:00～15:00
内容 施設の案内と説明

1、富士山のように たくましく 働くよるこびをもち 健康な家庭をつくります